

単元の目標

各ページの FOCUS に挙げられている英語が辞書なしで日本語に訳せる

(↑ひとまずこれが今の段階では達成できてたら OK です。)

※この分野は二次試験の和訳に出てきたときのためだけに学びます。

◎この単元は中学校で習ったものもあれば高校1年生で習ったこともあるので、まだ授業で触れられていない新しい部分のみを以下で解説します。具体的には FOCUS 219、220、222、223、226 が対象となります。

○準備知識

これ以下の接続詞を説明していくために、まず前提となる「言葉の捉え方」をお話しします。今回の前提は「言葉は(何語であっても)名詞→接続詞に変化する傾向がある」ということです。もう少しわかりやすくするためにまずは日本語を例に説明します。

「接続詞」という言葉は中学校の国語や英語でも習ったことがあると思います。一番皆さんが知っている「時(英語では when)」をもちいて前提を説明します。

「時」という言葉は、「時間」を指して名詞として「とき」という場合と、「～する“とき”」のように接続詞として機能している場合の2通りが日本語でもあると思います。両者は「とき」と「とき」で発音が異なるので日本人は(無意識ですが)区別ができます。しかしこの「時」は、最初使われ始めは名詞の「とき」しか存在せず、使っているうちに便利なので「～するとき」の接続詞としての使われ方が確立しています。「時」を名詞で使うとき、大抵の場面は「その時間に何をしているか」などの話題になってしまうので、自然な流れとして「接続」の役割も担うようになるのは感覚としてもわかるかと思います。

また別の例でいうと「一方」という言葉があります。今では皆さんは当たり前のように「～である一方・・・」のように接続詞として使っていますが、「一方」という2文字は「一方通行」などの言葉にあるようにそれだけ見ると「名詞」です。平安時代の日本では「一方」は「ひとかた」と読み、「一人の人・一つの方面」という意味で使われていました。平安時代の日本は、この「ひとかた」が「形容動詞」に変化し「ひとかたなり」という語ができています。「ひたすらに」「いちずに」という意味です。

源氏物語 浮舟

「ひとかたにうらみ給(たま)はむやうもなし」

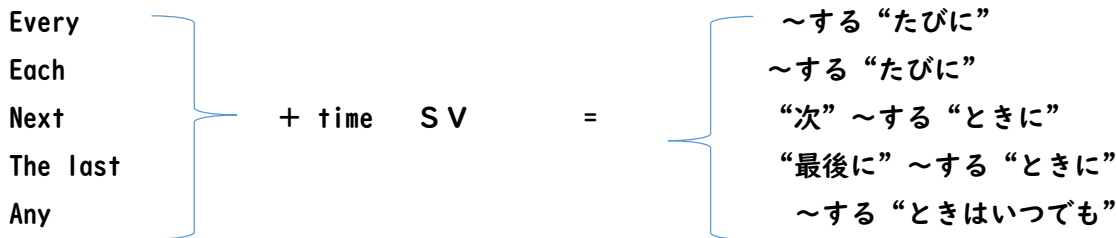
[訳] ただひたすらに恨みごとばかりおっしゃるわけにもいかない。

などの例が伺えます。話が少しそれましたが、とにもかくにも「言葉」というものは「品詞(名詞や動詞、接続詞などなど)」が歴史的な時間の流れにしたがって「変化する」ことができます。そして英語ももちろん同様にあ

てはまることで、英語の接続詞は特に「名詞から接続詞に転化した例」が多いので、これから説明する「構文」「イディオム」「熟語」などと呼ばれる表現の数々は元の形（多くは名詞）に遡ってから解説していきます。

★1 : Focus 2 1 9 every[each] time/ next time

まずは time の「接続詞化」からです。Ultimate の例に加えて、以下のようなものを紹介します。



全て「接続詞化」した例ですが、皆さんはこれらが出た時に、元の意味（名詞の形、たとえば every time は名詞の意味では“毎回”）を考えて「接続詞」として扱えばそこまで難しくはありません。単元の目標が「各ページの FOCUS に挙げられている英語が辞書なしで日本語に訳せる」ですので、これらが訳しなさい問題として出た時には、「接続詞化してるかな？」と思い出すようにしてください。

★2 : Focus 2 2 0 as soon as/ the moment

as soon as は模試や授業でたくさんでているので省略します。ここでは the moment SV の形のみを扱います。the moment 文も moment 「瞬間」の「接続詞化」の例です。Time 同様「時間」を表す語なので、「～する瞬間～」「～するとすぐに～」というような接続の意味を出します。

★3 : Focus 2 2 2 once/as long as/ as far as

once SV で「一度～すると・・・」という意味になります。これも once 「一度」という名詞から「接続詞化」が起こっています。

問題は as long as と as far as という2つの表現についてです。これら2つは、ニュアンスを区別することがよく問題として問われます。ただしその違いについての解説はそのまま p475 にのっているのを読んでみてください。

★4 : Focus 2 2 3 though/although/ even though/ even if

次に「譲歩（～けども）」の接続詞を紹介します。

まず though と although についてです。両方とも「～けども」という意味の接続詞です。よく間違える例が but と同様に考えて、

×I think I am full, although I can eat cakes.

（おなかいっぱいだと思う、けどもケーキは食べれる）

のようにする場合です。あくまで「though/although SV」の塊で、「SがVけども」という意味になりますので正しくは

Although I think I am full, I can eat cakes.

というように節を導く形で使ってください (when とか if とかと全く同じ種類です)。

両者の違いは though は口語、although が文語になりますので、作文と会話で使い分けをしてください。作文で though は△です。

続いて even though と even if についての説明です。混同しやすいのですが、きちんと使い分けがあります。

Even though : 実際に起こったことに対して使い、「～なのだけど」という意味になります。ただの though よりも強調した表現になります。

Even if : 実際に起こっていないことについて使い、「たとえ～であっても」という意味になります。

両者混同しないように気を付けましょう。

★5 : Focus 2 2 6 now that/in that

Ultimatep480 に載っている now that 「今や～だから」と in that 「～という点で」の表現について説明します。
～now that 構文～

Now that 構文も「接続詞化」されたものというのはなんとなく話の流れから想像がつくと思います。Now も時間に関係する単語なので time と同様に「接続詞化」されたわけです。
この構文は中々複雑なもので、しかも入試の訳しなさいにも出てくるのでここではしっかりとおさえておきます。
Ultimate の説明だけでは足りないので、こちらを参考にしてください。

○意味 : 「because」「if」「though/although」の3パターンに変化する

Ultimate には「今や～だから」の because の意味だけ載っていますが、その他にも「if (～すると)」と「though/although (～けども)」の意味を表します。

例1 : 理由

Now that the test is over, I' ll rest a few days.

(もうテストが終わったので、2, 3日休息をとるつもりです)

※この例が Ultimate に載っているものです。頻度としては一番多いです。

例2 : 条件 (～すると)

Now that I look back and think about it, I was not a great baseball player.

(今振り返って考えてみると、私は偉大な野球選手ではなかった)

※この例は「回想シーン」に多く見られます。

例3 : 譲歩 (～けども)

Even now that the market' s recovered its losses for Corona Virus, many companies are still in

red.

(市場はコロナウイルスによる損失分を回復したが、多くの企業はいまだに赤字である)

※この例は now that の前に even や still を伴うことが多いです。

～in that 構文～

この構文もよく入試で出ます。論文を英語で書くときに使いますが、逆に日常生活では使いません。in that で「～という点で」という意味をもつこの表現ですが、もとは「in the point that」でこの表現の「the point」が省略されたと考えてください。つまり

I was luck in the point that my parents were supportive.

(両親が協力的だったという点で私は幸運だった)

の例文で考えてみると、in the point that の中身が「～という点 (point)」の「～」を指しており、関係代名詞 that が point を修飾していると考えられます。

今回は「疑問詞」です。それではまた！